



手話サークル研究班



～ 「手話」は聴覚障害者にとって大切な言葉です ～

～ 「手話サークル研究班」の思い ～

メディアや地域で開催されている手話講習会の影響で手話に興味を持つ人たちが増え、「手話」に対する理解は確実に広がってきました。

でも、「手話」への理解が広がることと、「聴覚障害者」への理解が広がることは、イコールではありません。

手話に関われる時間、年齢等々、さまざまな条件の人たちが集うサークルでは、当然手話技術レベルはまちまちだと思いますが、そこにこだわる前に「手話」を健聴者の自己満足な趣味に終わらせることなく、学んだ手話を通して「聴覚障害者と共に歩む」ということが大切だと思います。

「手話サークル」の役割は、学んだ手話を通し、ろう者と交流しながら「手話」と共に「聴覚障害」に対する理解を深め、聴覚障害者と地域をつないでいくことだと考えます。

～ 「手話サークル研究班」のプロフィール ～

☆2004年4月、9名のメンバーで発足。

☆神通研集会・分科会「手話サークル」の運営を担当。

☆その他、神通研・関東通研・全通研の行事、集会に参加。

☆2007年10月現在、川崎3、横浜3、県域11 計17名で活動中!!

～ '07 神通研集会報告①～

手話に出会った人がまず覚える、「おはよう」とか「こんにちは」と同様に災害時に必要な手話が広まれば・・・と思います。ということで、災害時に必要な手話をグループごとに出し合ってみました。

「災害時に必要な手話（ことば）」①

- 1、聴こえない 2、手話 3、通訳
- 4、筆談 5、FAX 6、メール 7、水
- 8、お弁当 9、おにぎり 10、パン
- 11、ゴミ 12、毛布 13、使い捨てカイロ
- 14、オムツ 15、ミルク 16、補聴器
- 17、電池 18、充電 19、家 20、探す
- 21、連絡 22、家族（夫・妻・息子・娘・父・母） 23、必要 24、～が欲しい
- 25、お願いします（～して下さい）
- 26、～はどこですか？ 27、ありがとう
- 28、わかる 29、わからない 30、いつも

サークルで災害を考えるきっかけにしてみてください。

～ 定例会 ～

9月は集会があったため、定例会はお休みでした。

集会前日の15日、準備のため6時集合。

いろいろとレイアウトを検討しながら、机といすを並べた後、一番の不安要因だった、当日上映予定のDVDがうまく映るかどうか・・・操作方法はラポール職員の方が丁寧に教えて下さり、難なくクリア!

非常食の試食時に使うお湯を沸かすポットを準備し、配布資料、展示資料を確認し、あとは得意の臨機応変! 言い換えれば、いつもながら行き当たりばったりだなあ・・・みなさん、ご迷惑お掛けします! 懲りずにお付き合いよろしく～～

【次回定例会】10月13（土）10:30～
かながわ県民センター 12階 ボランティアコーナー

～サークル研究班メンバーのささやき

先日乗った電車の中の優先席での出来事。

若い女の子がバッグから携帯電話を取り出したところ、隣に座っていた女性が「ここでは、使っちゃダメ」・・・と。「ごめんなさい。すみません」と女の子。

注意すること、謝ること。当たり前なのそして大切なコミュニケーションが、新鮮に映りました。

～南風～